

5回の学生調査から探る 実演芸術鑑賞行動パターンとその規定要因

- 学生調査データベースの構築と分析を通して -

日本コムシス株式会社
加藤優希
兵庫県立大学応用情報科学研究科
有馬昌宏

2010年7月27日

目次

1. 研究の背景
2. 研究の目的
3. データベースの設計・構築
4. ライブとメディアによる芸術鑑賞の分析
5. 結論と今後の課題

1. 研究の背景

ものの豊かさより心の豊かさ

- 近年、人々はものの豊かさより心の豊かさを重視
文化・芸術への関心が増大している

・内閣府『平成21年度 国民生活に関する世論調査』(調査時期 2009年6月4日～6月21日, 標本数10,000)
「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活
することに重きをおきたい」と答えた人の割合 **60.5%**

・文化庁『平成21年度 文化に関する世論調査』(調査時期 2009年11月5日～11月15日, 標本数3,000)
「日常生活の中で、優れた文化芸術体験をしたり、自ら文化芸術活動を行ったりする
こと」を大切だと答えた人の割合 **88.5%**



文化政策・アーツ・マネジメントの気運が高まる

文化庁

平成13年「文化芸術振興基本法」
平成19年「文化芸術の振興に関する基本的な方針」

3

1. 研究の背景

アーツ・マネジメント

伊藤裕夫, 小林真理, 中川幾郎他らの定義

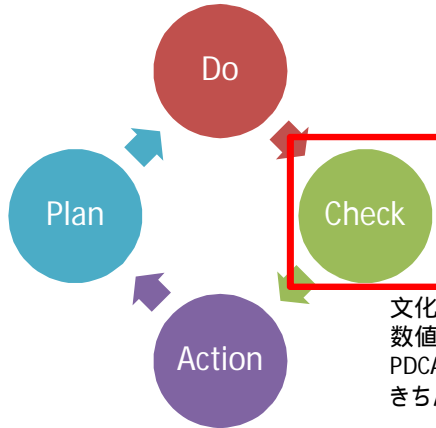
- 今日の社会の中における芸術文化の
意義(使命)を明らかにし,
- 芸術文化の有効性(組織の共通目的を達成
する能力)と能率(参加者の欲求を満足させる
能力)を拡大することで,
→芸術文化組織の発展, 振興

4

1. 研究の背景

有効性や能率を論じるならば

- Experience Basedの感覚的検証ではなく、Evidence Basedの客観的検証が必要



文化・芸術の有効性や能率を数値化して評価し、PDCAのマネジメントサイクルをきちんと回していく必要がある

1. 研究の背景

現状と問題点

問題点	
標本数が十分な調査 (例: 社会生活基本調査)	実演芸術の分野・ジャンルが包括的
実演芸術の分野・ジャンルが詳細な調査 (例: 国民の文化に関する意識調査)	標本数が不十分

文化・芸術分野の実態を明らかにする代表的な統計調査

調査実施主体	総理府内閣府	総理府内閣府	文化庁	財団法人日本生産性本部	日本放送協会
調査名	社会生活基本調査	文化に関する世論調査	国民の文化に関する意識調査	余暇活動に関する調査	国民生活時間調査
調査年	1976年以降5年ごと	1987・1996・2003・2009年	1993年と1999年	1977年以降毎年	1960年以降5年ごと
これまでの調査回数	7回	4回	2回	33回	10回
調査対象	全国の世帯(10歳以上の世帯員)	全国20歳以上の男女	全国20歳以上の男女	5万人以上の都市に居住の15歳以上男女	全国10歳以上の国民
最近調査でのサンプル数	約77,000世帯	3,000	2,000	3,000	12,600
最近調査での回答者数	約200,000人	1,853	1,509	2,415	7,718
調査項目としての実演芸術の分野数	3	3(7ジャンル)	7	3	1
1) 伝統演劇	4ジャンル				
2) 現代演劇	8ジャンル				
3) オペラ等	6ジャンル				
4) 舞踊・舞踏・バレエ等	9ジャンル				
5) 大衆芸能	6ジャンル		1(ジャンル)		
6) クラシック音楽	13ジャンル				
7) ポピュラー音楽	10ジャンル				

(表中の「は」は、対応する実演芸術分野の過去1年間の鑑賞行動の有無が調査されていることを示す)

1. 研究の背景

「現代青年の芸術意識と芸術活動調査」 (以後学生調査と記述)

目的

- 文化・芸術情報の体系化
- 統計調査方法の確立

文化・芸術の需要者側の実態調査



「現代青年の芸術意識と芸術活動調査」が実施

(一橋大学松田芳郎名誉教授らのグループによる
文部省(文部科学省)科学研究費補助金を用いた研究)

7

1. 研究の背景

実施年

- 第1回調査(1985年度実施)昭和60・61・62年度文部省科学研究費補助金特定研究(1)
「我が国の芸術動向に関する基礎研究」(課題番号 62124012, 研究代表者:三善晃)
- 第2回調査(1991年度実施)平成2・3年度文部省科学研究費補助金総合研究(A)
「わが国文化・芸術情報の体系化と統計調査方法の研究」(課題番号 02305009, 研究代表者:
永山貞則)
- 第3回調査(1996年度実施)平成8・9・10年度文部省科学研究費補助金重点領域研究
<統計情報活用のフロンティアの拡大> 公募研究「実演芸術の需要の実態と構造に関する統計
情報の収集と時系列分析」(課題番号 09206107, 研究代表者:杉江淑子)
- 第4回調査(2002年度実施)平成13・14・15年度文部科学省科学研究費特別研究促進費
(1)「芸術・文化政策立案のための統計指標の開発と体系化に関する研究」(課題番号
13800007, 研究代表者:周防節雄)
- 第5回調査(2008年度実施)第5回日本学術振興会科学研究費補助金による研究
平成19年~21年度基盤研究(B)「日本に於けるサービス産業の比重増加に 芸術関連サービス
産業が及ぼす役割の時系列解析」(研究代表者:周防節雄)

約5年毎に実施

8

1. 研究の背景

調査対象

- 全国の学生
- 研究分担者による母集団の構造に近似した構成比となるように留意しながらの有意抽出.

第1回調査	第2回調査	第3回調査	第4回調査	第5回調査
有効回収 サンプル	有効回収 サンプル	有効回収 サンプル	有効回収 サンプル	回収 サンプル
10,570	10,819	10,061	3,763	7,682

計42,895サンプル

9

1. 研究の背景

調査項目

実演芸術7分野 48～64ジャンルの**ライブ鑑賞経験**
(過去通算と過去1年)

実演芸術7分野の**メディア鑑賞経験**(過去1年)を
問う質問群

実演芸術7分野
(伝統演劇, 現代演劇, オペラ等, 舞踏・バレエ,
クラシック音楽, ポピュラー音楽, 大衆芸能)

映画鑑賞と美術などの**視覚芸術鑑賞の経験と
鑑賞場所**を問う質問群

- 鑑賞行動に影響を与える要因に関する質問群

10

1. 研究の背景

調査項目

生活時間に関わる項目 (所属学部, 学年, 課外活動, アルバイト状況など)

経済状況に関する項目 (家族からの仕送り・小遣い, アルバイトおよび奨学金からの所得, 居住形態, 芸術・余暇活動関連機器保有状況など)

地域に関する項目 (出生地域, 生育地域, 現住地域, 大学所在地域など)

文化資本または文化的環境に関わる項目 (家族構成と家族の学歴・職業・年齢, 稽古事歴, 主体的芸術活動歴, 購読新聞, 書籍・雑誌の購読状況と購読ジャンルなど)

2008年度実施 第5回学生調査調査票

調査項目

ライブ鑑賞	美術鑑賞
メディアによる鑑賞	映画鑑賞
印象に残った公演	芸術への考え方
本・新聞・情報取得状況	家族構成
耐久消費財保有状況	稽古事歴
フェイスシート項目	芸術活動歴

12項目

25年間にわたる学生調査の問題点

第1回, 第2回, 第3回, 第4回, そして第5回調査で作成された個々のデータファイルと集計解析用プログラムが相互に独立, 集計解析結果を直接に比較できない。



調査データの集計結果を単純に並置しただけでは表頭項目や表側項目の категория に不整合が生じ, 時系列的な比較分析の実行ができない。

第1回調査	第2回調査	第3回調査	第4回調査	第5回調査
変数数	変数数	変数数	変数数	変数数
329	1,572	1,514	1,618	1,518

変数リストの不在

本研究の目的

- データウェアハウスという概念を援用し、5つの学生調査データベースを統合.
- 一括したプログラムで時系列的・横断面的に集計・解析を実行し、結果表を容易に出力ができるデータベースの設計・構築.

データベースの設計・構築

データウェアハウスという概念の説明

- 歴史
- 4つの特徴

概念の実装に用いた多次元データモデルの説明

- 多次元データモデルの要素

モデルの適用に用いた手法: スタースキーマ

- 定義
- 実装状況

データウェアハウス

MIS (経営情報システム : Management Information System)



DSS (意思決定支援システム : Decision Support System)



データウェアハウス

時系列的なデータを含む歴史的データベース
意思決定支援のためのツール(分析・解析・
レポート生成)の集まり

データウェアハウスの4つの特徴

サブジェクト指向 (subject-oriented)

- ・テーマに沿ったテーブル作成

統合化 (integrated)

- ・共通のデータ表現
- ・ネーミングの競合や単位の不整合といった問題の解決

恒常的 (nonvolatile)

- ・データウェアハウスに格納されたデータは値が更新されず, 変更されない

時系列 (time-variant)

- ・データは時系列に保存される

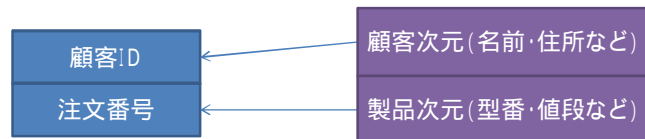
William H. Inmonが1990年に提唱

多次元データモデル

2つの要素

主題領域と結びついているオブジェクトを定義する
大部分が数値尺度の集合
(例えば, 顧客ID, 注文番号)

各尺度に対して文脈を与える次元の集合
(例えば, 顧客, 製品, 注文, 地域)

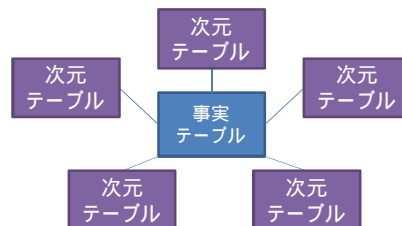


19

多次元データモデルの設計

設計に用いられるスキーマ: スタースキーマ, スノーフレイクスキーマ

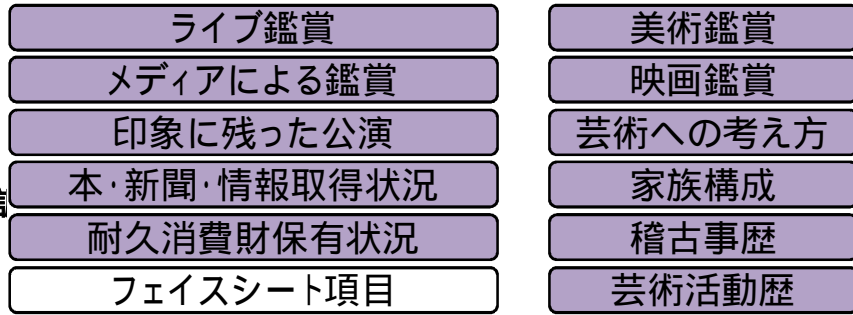
- **スタースキーマ** (SASはスノーフレイクスキーマを構築できない)
スタースキーマは1つの事実テーブル(Fact table)と次元テーブル(Dimension table)の集合から構成



20

3. データベースの設計・構築

Form fields include: F1. 性別 (Sex), F2. 年齢 (Age), F3. 職業 (Occupation), F4. 学年 (School Year), F5. 出身した場所 (Origin), F6. 高校卒業後の住所 (Address after high school), F7. 現住所 (Current residence), F8. 大学卒業後に住みたい場所 (Desired residence after university), F9. 希望する賞 (Desired award).



事実テーブルにフェイスシートを含む形として設計
フェイスシートを中心に12の次元テーブルが周りに存在するデータベース

3. データベースの設計・構築

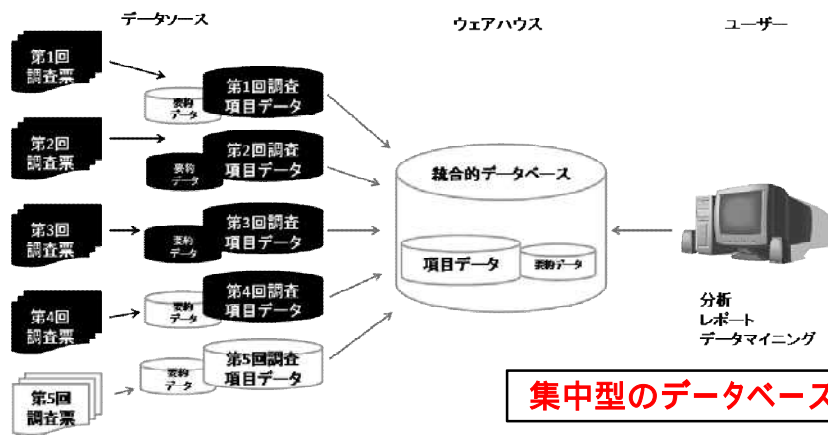
データベースに使用したレコード数

第1回調査	第2回調査	第3回調査	第4回調査	第5回調査
有効回収 サンプル	有効回収 サンプル	有効回収 サンプル	有効回収 サンプル	有効回収 サンプル
10,570	10,819	10,061	3,763	789

- 第5回調査は現時点で7,682の調査票が回収.
- 研究費の制約により,
10%抽出のデータを入力し使用している.

3. データベースの設計・構築

データベースシステムの構成

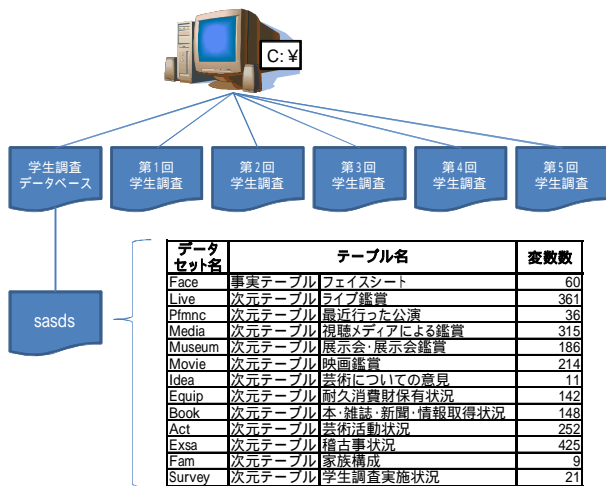


* 図りつとされている部分は、これまで三宮(1986)、永山(1991)、松江(1996)、若松(2002)によって構築されてきたデータベース

- ・第5回調査票からの項目データの作成
- ・変数リストの作成
- ・統合的データベースの作成

3. データベースの設計・構築

データベースのファイル構造



4. ライブとメディアによる芸術鑑賞の分析

SASプログラムを用いた分析

- 構築したデータベースの有用性の確認として
SASプログラムを用いて
ライブとメディアによる芸術鑑賞の分析を実行
- クロス集計 (時系列分析)
 - 学生の余暇活動関連機器の保有状況についてのクロス集計
 - 学生の実演芸術のライブ鑑賞状況についてのクロス集計
 - 学生の視聴覚機器による実演芸術鑑賞状況についてのクロス集計
- ロジスティック回帰分析 (横断面分析)

25

4. ライブとメディアによる芸術鑑賞の分析

分析用データセットの作成

```
/* dataset_make */
/* 分析用のデータセットを作成する */
option nocenter;
libname student "C:\学生調査データベース\sasds";

data temp;
merge student.face student.データセット名; by key;
  *if svyear= 1985 then output; /* 第1回調査 */
  *if svyear= 1991 then output; /* 第2回調査 */
  *if svyear= 1996 then output; /* 第3回調査 */
  *if svyear= 2002 then output; /* 第4回調査 */
  *if svyear= 2008 then output; /* 第5回調査 */
/* 横断面分析を行う場合には、分析を行う年のデータだけをoutputする */
run;
```

SASでは文頭に*をつけることで、その行が注釈扱いとなる。

26

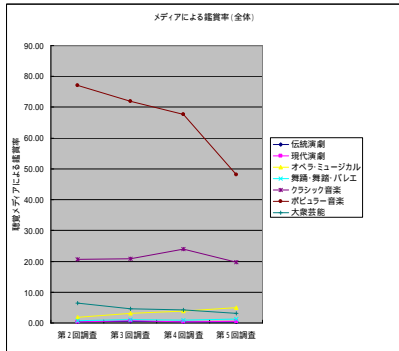
4. ライブとメディアによる芸術鑑賞の分析

視聴覚メディアによる鑑賞経験者率の推移

実演芸術7分野の視聴覚メディアによる鑑賞経験者率

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査					
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子				
観劇メディア鑑賞の内訳ラジオで聴く	38.42	37.13	37.63	37.64	36.18	36.47	35.99	34.60	33.81	11.32	12.23	
観劇メディア鑑賞の内訳CDで聴く	8.71	4.97	5.96	6.95	7.20	4.83	5.93	9.27	5.84	1.27	1.84	0.95
観劇メディア鑑賞の内訳YouTubeで聴く	34.52	37.69	35.82	23.71	20.99	27.03	8.73	5.77	11.44	1.37	1.58	1.14
観劇メディア鑑賞の内訳MP3で聴く
観劇メディア鑑賞の内訳Podで聴く
観劇メディア鑑賞の内訳不明
聴覚鑑賞の内訳ラジオで聴く	0.30	0.40	0.37	0.47	0.51	0.34	0.43	0.51	0.36	0.41	0.53	0.29
聴覚鑑賞の内訳CDで聴く	0.19	0.16	0.18	0.17	0.17	0.17	0.21	0.23	0.24	0.27	0.26	0.28
聴覚鑑賞の内訳YouTubeで聴く	0.03	0.02	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00
聴覚鑑賞の内訳MP3で聴く	0.03	0.07	0.05	0.06	0.06	0.07	0.05	0.06	0.05	0.00	0.00	0.00
聴覚鑑賞の内訳Podで聴く	0.05	0.07	0.06	0.13	0.11	0.09	0.13	0.17	0.10	0.27	0.26	0.28
聴覚鑑賞の内訳不明
聴覚鑑賞の内訳不明	0.39	0.25	0.39	0.31	0.29	0.31	0.44	0.35	0.40	0.36	0.40	0.26
現代音楽鑑賞の内訳ラジオで聴く	0.22	0.37	0.29	0.24	0.13	0.16	0.21	0.23	0.21	0.25	0.26	0.25
現代音楽鑑賞の内訳CDで聴く	0.00	0.00	0.00	0.04	0.04	0.02	0.03	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00
現代音楽鑑賞の内訳YouTubeで聴く	0.02	0.16	0.08	0.20	0.17	0.20	0.06	0.19	0.10	0.00	0.00	0.00
現代音楽鑑賞の内訳MP3で聴く	0.02	0.16	0.08	0.09	0.11	0.07	0.19	0.14	0.21	0.04	0.00	0.00
現代音楽鑑賞の内訳Podで聴く	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
現代音楽鑑賞の内訳不明
クラシック音楽鑑賞の内訳ラジオで聴く	0.39	0.52	0.39	0.37	0.09	0.10	0.44	0.48	0.65	0.70	0.66	0.68
クラシック音楽鑑賞の内訳CDで聴く	0.22	0.37	0.29	0.24	0.13	0.16	0.21	0.23	0.21	0.25	0.26	0.25
クラシック音楽鑑賞の内訳YouTubeで聴く	0.00	0.00	0.00	0.04	0.04	0.02	0.03	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00
クラシック音楽鑑賞の内訳MP3で聴く	0.02	0.16	0.08	0.20	0.17	0.20	0.06	0.19	0.10	0.00	0.00	0.00
クラシック音楽鑑賞の内訳Podで聴く
クラシック音楽鑑賞の内訳不明
オペラ・ミュージカル鑑賞の内訳ラジオで聴く	0.94	1.41	1.13	0.92	0.26	0.79	0.81	0.65	1.13	0.41	0.26	0.57
オペラ・ミュージカル鑑賞の内訳CDで聴く	0.12	0.26	0.18	0.22	0.11	0.34	0.32	0.23	0.41	0.00	0.00	0.00
オペラ・ミュージカル鑑賞の内訳YouTubeで聴く	0.37	1.38	0.80	0.46	0.15	0.96	0.24	0.00	0.46	0.14	0.00	0.20
オペラ・ミュージカル鑑賞の内訳MP3で聴く	0.96	3.21	1.90	2.39	1.17	3.79	3.22	1.41	4.87	3.96	2.11	5.91
オペラ・ミュージカル鑑賞の内訳Podで聴く	0.94	0.28	1.84	0.82	0.26	1.42
オペラ・ミュージカル鑑賞の内訳不明
舞踏鑑賞の内訳ラジオで聴く	0.72	1.34	1.00	1.11	0.70	1.00	0.86	0.60	1.23	1.37	0.26	2.56
舞踏鑑賞の内訳CDで聴く	0.29	0.33	0.37	0.22	0.13	0.24	0.32	0.17	0.46	0.50	0.00	0.00
舞踏鑑賞の内訳YouTubeで聴く	0.02	0.14	0.07	0.09	0.02	0.11	0.03	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00
舞踏鑑賞の内訳MP3で聴く	0.17	0.28	0.21	0.15	0.06	0.25	0.06	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00
舞踏鑑賞の内訳Podで聴く	0.44	0.70	0.55	0.63	0.39	0.91	0.46	0.17	0.72	1.09	0.26	1.99
舞踏鑑賞の内訳不明	0.19	0.06	0.31	0.95	0.00	1.14
クラシック音楽鑑賞の内訳ラジオで聴く
クラシック音楽鑑賞の内訳CDで聴く	8.42	12.18	10.80	8.40	7.94	6.81	4.69	6.46	4.13	2.89	3.41	2.89
クラシック音楽鑑賞の内訳YouTubeで聴く	1.42	2.51	1.88	1.11	1.20	1.26	1.48	1.07	1.85	1.72	0.78	0.28
クラシック音楽鑑賞の内訳MP3で聴く	4.69	6.46	6.28	3.34	2.16	4.85	2.15	1.07	3.13	0.27	0.26	0.28
クラシック音楽鑑賞の内訳Podで聴く	15.42	23.26	18.80	11.90	10.11	22.11	12.99	13.16	17.89	17.29	21.99	17.99
クラシック音楽鑑賞の内訳不明
クラシック音楽鑑賞の内訳不明
オペラ・ミュージカル鑑賞の内訳ラジオで聴く	7.11	10.22	10.24	10.59	10.74	10.70	10.70	10.70	10.70	10.70	10.70	10.70
オペラ・ミュージカル鑑賞の内訳CDで聴く	24.10	21.72	20.11	18.57	18.86	20.99	27.27	27.42	24.40	19.42	14.36	11.36
オペラ・ミュージカル鑑賞の内訳YouTubeで聴く	5.05	2.86	4.68	4.82	6.34	3.20	4.46	5.20	3.80	1.06	1.06	0.57
オペラ・ミュージカル鑑賞の内訳MP3で聴く	22.03	34.15	33.28	22.01	19.68	24.85	7.09	4.86	6.13	0.86	1.32	0.57
オペラ・ミュージカル鑑賞の内訳Podで聴く	68.83	67.75	67.46	65.46	69.66	69.66	56.32	55.80	41.80	15.16	18.83	15.16
オペラ・ミュージカル鑑賞の内訳不明
大衆音楽鑑賞の内訳ラジオで聴く	6.48	3.49	3.24	4.00	5.92	3.00	4.27	5.77	2.82	3.10	3.00	1.14
大衆音楽鑑賞の内訳CDで聴く	0.27	0.02	0.17	0.12	0.19	0.02	0.16	0.28	0.05	0.14	0.26	0.00
大衆音楽鑑賞の内訳YouTubeで聴く	1.18	0.52	0.58	0.58	0.73	0.41	0.32	0.51	0.16	0.27	0.53	0.00
大衆音楽鑑賞の内訳MP3で聴く	2.41	1.15	1.88	1.87	1.94	1.09	1.42	1.75	1.13	1.60	2.37	0.57
大衆音楽鑑賞の内訳Podで聴く
大衆音楽鑑賞の内訳不明

視覚・聴覚のどちらにおいてもポピュラー音楽鑑賞が第5回調査時に大きく減少。



4. ライブとメディアによる芸術鑑賞の分析

ロジスティック回帰分析のフレームワーク

仮説

視聴覚メディアによる実演芸術鑑賞が日常的に行われるようになるにつれて、学生たちの間で実演芸術のライブ鑑賞という非日常的体験への欲求が高まってきたのではないかと推察。つまり視聴覚メディアによる芸術鑑賞経験は、ライブによる芸術鑑賞への欲求を高める、いわば補完関係にあると考えた。

サンプル:

質問項目がほぼ同じである第2回から第5回のデータ

被説明変数:

実演芸術7分野についての過去1年に限定したライブ鑑賞経験の有無。

説明変数:

性別(男子を基準),
居住場所(関東地方を基準),
通学形態(自宅通学を基準),

視覚メディアによる各実演芸術の鑑賞経験(経験無を基準),

聴覚メディアによる各実演芸術の鑑賞経験(経験無を基準),

第3回以降は

インターネット接続の有無(インターネット接続無を基準)

4. ライブとメディアによる芸術鑑賞の分析

ロジスティック回帰分析の実行

```

/* Logistic.sas */
/* dataset_make.sasによって作成されたデータを使用し、分析を行う */

options nocenter nodate nonumber mprint;
%let logisticclass=class 目的変数 従属変数;

%macro analysis(calculate,name,indvar,depvar,option);
proc &calculate data=temp;
  &logisticclass;
  model &indvar = &depvar &option;
  title "&indvar.データについて&name.を実行";
run;
%mend;

ods listing close;
ods html file="C:\学生調査データベース\logistic.xls";

%analysis(logistic, 2項ロジスティック回帰分析, 目的変数(伝統演劇), 従属変数.);
%analysis(logistic, 2項ロジスティック回帰分析, 目的変数(現代演劇), 従属変数.);
%analysis(logistic, 2項ロジスティック回帰分析, 目的変数(オペラ等), 従属変数.);
%analysis(logistic, 2項ロジスティック回帰分析, 目的変数(舞踏・バレエ), 従属変数.);
%analysis(logistic, 2項ロジスティック回帰分析, 目的変数(クラシック音楽), 従属変数.);
%analysis(logistic, 2項ロジスティック回帰分析, 目的変数(ポピュラー音楽), 従属変数.);
%analysis(logistic, 2項ロジスティック回帰分析, 目的変数(大衆芸能), 従属変数.);

ods html close;
ods listing;
  
```

3点補足

クラスは不要

オプションは設定されていない

実際には目的変数(伝統演劇)には Live88 という変数名が、従属変数には sex2 region1 region3-region7 home1 year2-year4 Media17 Media188 といった変数名が入る

4. ライブとメディアによる芸術鑑賞の分析

分析結果

視覚メディアによる鑑賞がライブ鑑賞に及ぼす影響

	伝統演劇	現代演劇	オペラ等	舞踏・バレエ	クラシック音楽	ポピュラー音楽	大衆芸能
第2回調査	0.694 **	0.530 **	0.499 **	0.772 **	0.462 **	0.255 **	0.217 **
第3回調査	0.807 **	0.662 **	0.543 **	0.701 **	0.393 **	0.199 **	0.367 **
第4回調査	0.805 **	0.657 **	0.511 **	0.614 **	0.440 **	0.160 **	0.151
第5回調査	0.841 *	0.723 **	0.345	0.610 *	0.609 **	0.329 **	0.205

聴覚メディアによる鑑賞がライブ鑑賞に及ぼす影響

	伝統演劇	現代演劇	オペラ等	舞踏・バレエ	クラシック音楽	ポピュラー音楽	大衆芸能
第2回調査	0.498 *	0.242	0.457 **	0.458 **	0.513 **	0.217 **	0.153
第3回調査	0.386	0.120	0.586 **	0.521 **	0.508 **	0.260 **	0.050
第4回調査	0.435	-0.042	0.726 **	0.309	0.609 **	0.275 **	0.106
第5回調査	0.323	0.462	0.906 **	0.434	0.469 **	0.041	0.487 *

5%有意水準でプラスに有意
1%有意水準でプラスに有意

	W1	W2	W3	W4	W5	W6	W7	W8	W9	W10	W11	W12		
視覚メディアによる経験有り	0.841	0.022*	0.723	0.000**	0.345	0.111	0.610	0.017*	0.609	<.0001**	0.329	0.001**	0.205	0.265
聴覚メディアによる経験有り	0.323	0.602	0.462	0.456	0.906	<.0001**	0.434	0.260	0.469	0.000**	0.041	0.681	0.487	0.046*
インターネット接続有り	0.144	0.291	0.052	0.605	0.183	0.107	-0.072	0.584	0.288	0.005**	0.061	0.496	0.081	0.486

注)表中の**は1%有意水準,*は5%有意水準で有意であることを示す。

結論

- 統合的なデータベースを構築し、一括した集計解析用プログラムによって、集計・解析結果を直接的に比較できる形式で得ることができるようになった。
- SASプログラムを用いて時系列的・横断面的な分析を実行し、視聴覚メディアによる鑑賞がライブ鑑賞にプラスの効用を及ぼすことが明らかとなった。



・社会生活基本調査などの全体像の分析結果と各自治体や団体が保有する個別の来館・来場者データの分析結果と組み合わせることで、デジタル時代のアーツ・マネジメントを効果的に推進することが可能になる

今後の課題

- 今回行ったのは実験的分析であり、今後**詳細な分析が望まれる**。
- 鑑賞経験率の集計や2項回帰分析におけるパラメータの推定に際しては、各個票データの**母集団復元乗率に基づく重み付けの調整**が必要であるにもかかわらず、このような調整は行っていない。
- 現在はデータセット名と出現番号によって変数名を付けているが、分析の利便性を考えるならば、**各変数が何を表しているかが一目でわかるような変数名を付けるべき**。

SASユーザー総会アカデミア / テクノロジー & ソリューションセッション 2010

5回の学生調査から探る
実演芸術鑑賞行動パターンとその規定要因

- 学生調査データベースの構築と分析を通して -

日本コムシス株式会社
加藤優希
兵庫県立大学応用情報科学研究科
有馬昌宏

2010年7月27日